

令和5年度 雨水技術情報交換会 アナウンスメントコーナー資料

ICUD2024のご案内他2件

八千代エンジニアリング株式会社 海外事業部

榊原隆

tk-sakakibara@yachiyo-eng.co.jp



2023年8月1日

yec 八千代エンジニアリング株式会社

<https://www.yachiyo-eng.co.jp/>

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

<https://gi-platform.com/>

○沿革

2020年3月に設立、事務局は国交省環境政策課

2023年3月20日現在1,698会員（団体、個人）

企画・広報部会、技術部会、金融部会（榊原は技術部会の幹事）

○技術部会の活動

- ・要素技術や設計・評価手法をとりまとめ、「グリーンインフラ技術集」として公表
- ・グリーンインフラの主な効果ごとに7つのグループ（①都市浸水対策②猛暑対策③生物多様性保全④温室効果ガス削減⑤健康増進⑥地域経済振興⑦総合評価）に分かれ、既存の研究事例等を参考に指標・評価手法のたたき台を整理。「グリーンインフラ評価の考え方とその評価例」として公表（榊原は①都市浸水対策のとりまとめを実施）



<https://green-infra-pdf.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/R5%E3%82%AF%E3%82%99%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%B3%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%95%E3%83%A9%E6%8A%80%E8%A1%93%E9%9B%86.pdf>



<https://green-infra-pdf.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/Rep-hyoka.pdf>

雨水貯留浸透施設の効果と評価手法（案）

Ⅲ-1-① 評価手法検討の検討方針

グループ名
都市浸水対策WG

<グループ名> 都市浸水対策(雨水貯留・浸透)グループ

✓ グリーンインフラと従来の雨水貯留浸透施設の機能の違いは以下のように整理される。

雨水貯留浸透施設に期待できる効果※	環境					健康		社会			経済						
	洪水低減	下水道処理の減少	水質浄化	地下水涵養	大気質改善、二酸化炭素吸収	生物の生息地創出	ヒートアイランド現象の緩和	ストレスの低下	運動機会の増加	熱中症の低下	景観向上	公衆安全	教育機会の場の提供	コミュニティの結実	労働・ビジネス開発	土地価格の向上	投機機会の向上
■ 大きな効果がある ■ ある程度の効果がある □ 効果が少ない/関係性なし																	
雨水貯留浸透施設 (グリーンインフラ)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
従来の雨水貯留浸透施設	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

※次の資料を参考に作成

- Center for Neighborhood Technology: The Value of Green Infrastructure
- Building natural value for sustainable economic development: The green infrastructure valuation toolkit user guide
- National Recreation and Park Association: Green Infrastructure Benefits

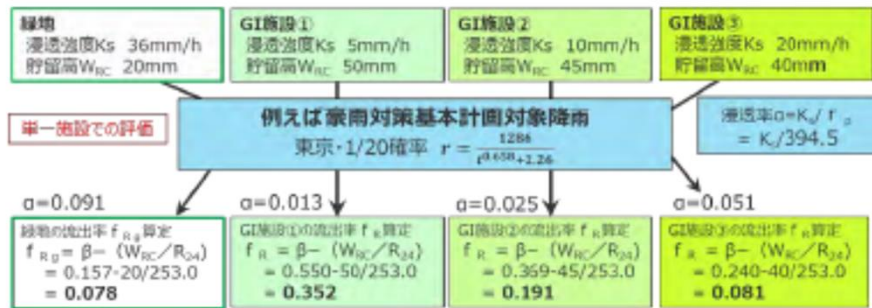
出典:長濱、大城「道路空間におけるグリーンインフラの取組み～雨庭などの雨水貯留浸透機能を持つグリーンインフラを中心に～」、土木技術資料第63巻5号(2021)

➤ グリーンインフラの考えに基づいて計画された雨水貯留浸透施設等は、多様な機能を有するが、ここでは主として雨水貯留浸透機能の評価手法について説明する(※その他の機能についてはそれぞれ関連するWGの評価手法を参照されたい 例:生息地の創出効果については「生物多様性保全WG」)

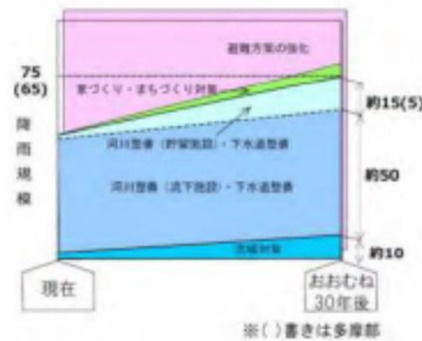
雨水貯留浸透施設の効果と評価手法（案）

III-1-② 各機能評価で着目する評価スケール、評価のレベル グループ名 都市浸水対策WG

	詳細レベル	中位レベル	簡易レベル
大スケール (河川流域、行政区 1km ² 以上)		[2] 浸透強度 (浸透能)	[3] 実質浸透域率 平均流出係数
中スケール (町単位 ~1km ²)	[1] 施設ごとに設定し た流出率		
小スケール (町丁単位 ~0.1km ²)			

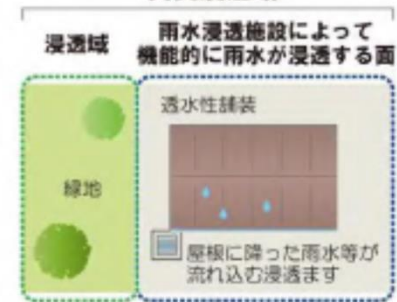


10mm/h相当分を流域対策



※東京都豪雨対策基本方針より

実質浸透域



※港区緑と水の総合計画より

ICUD2024



Home About Programme Committees Destination Paper Submission

16th International Conference on Urban Drainage 2024

9-14 June 2024 • University of Technology, Delft, NL

第16回 国際都市（雨水）排水会議
2024年6月9日～14日
オランダ デルフト工科大学

<https://icud2024.org/>
2023 Newsletter は以下

http://www.jcud.org/downloads_file/2023_JCUD_Newsletter.pdf

ICUD2024

July 2023	Call for Abstracts
15 th December 2023	Deadline Extended Abstract Submission
15 th February 2024	Notification of Acceptance
1 st May 2024	Submission Corrected Extended Abstracts or Full Article*
21 st May 2024	Poul Harremoës Award Nominees Notification
9 th June 2024	Conference Start

* Authors are invited to resubmit a corrected version of their original extended abstract or a full article

2023年7月	アブストラクト募集開始
2023年12月15日	アブストラクト提出締め切り
2024年2月15日	採択通知
2024年5月1日	アブストラクトあるいはフルペーパーの提出期限
2024年5月21日	ポール・ハレモア賞候補者発表
2024年6月9日	会議初日

参考 : <https://icud2024.org/>

2022 Newsletter は以下

http://www.jcud.org/downloads_file/2022_JCUD_Newsletter.pdf

ISO24536およびTR24539

下水道の雨水管理に関する国際規格

ISO24536(2019)

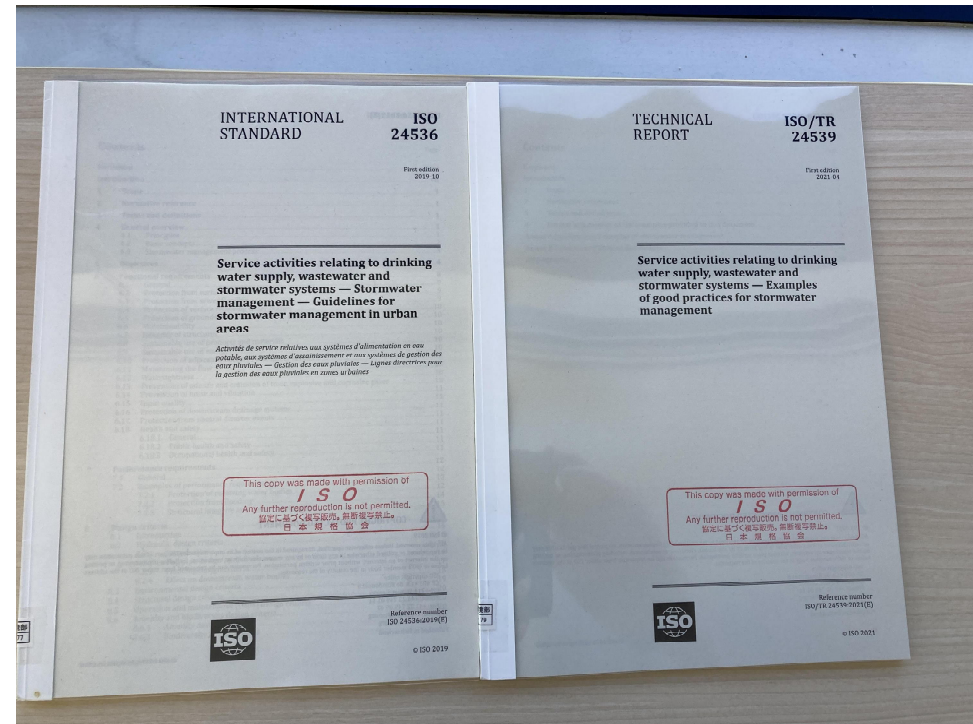
- ・ 雨水管理の計画、評価等に関する国際規格
- ・ 我が国の雨水管理計画の特長（段階的整備、非施設型対策）を盛り込む

ISO/TR24539(2021)

- ・ 24536を補完する事例集
- ・ 全19事例、うち10は日本

日本規格協会で発売

参考：<https://www.jswa.jp/en/jswa-en/pdf/jatcs/2020/E-2-5.pdf>



○目的

上下水道管理者が実施する上下水道サービスに係る国際規格を作成

○方式

各国からの参加者がWGを形成し規格案を検討

○日本の参加状況

- ・ 日本下水道協会「ISO/TC224下水道国内対策委員会」による関与
- ・ WG11 (雨水管理)の議長国
- ・ WG10 (Flushable Products)、WG16 (Climate Change Adaptation)への参加



<https://committee.iso.org/home/tc224>

2019年総会 (コペンハーゲン)



WG10 (Flushable Products)



WG16 (Climate Change Adaptation)

2023年総会 (パリ)